

史 談

2022 (R4)

9. 5

季節は秋の風に変わりましたが、不安定な天候の日々が続いています。皆様には御健勝で過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、新型コロナの流行はまだ収まってくれません。私たちの活動も思うにまかせない日々が続いています。まずは、そのことでのお知らせです。

■今年度の研修旅行を中止します

9月19日(月)に予定しておりました研修旅行を中止します。

新型コロナの流行が拡大し、町内でも1日で2桁の感染者が報告されています。また、感染者の年代も高齢者も含み全年代にわたっています。既に4回目のワクチン接種が済んでいらっしゃる方もいらっしゃると思いますが、その効果も完全とはいえないようです。

そのような事情や、長時間の車での移動なども考慮して、本会としては今年度の研修旅行は見送ることといたしました。なお、平吹会長さんが作ってくださった行程を裏面に掲載しました。個人的に研修なさる際などに御利用いただければありがたいと思います。

■今年度の総会報告

6月26日(日)午後1時30分から十王地区コミュニティセンターで総会を開きました。出席者はとても少なく、さびしい総会となりましたが、時節柄仕方ないことかとお思います。

また、総会に引き続き、山形県産業科学館

長の宮野悦夫氏を招いて講演会を開催しました。こちらには町内だけでなく、町外からもおいいただき、準備した席では足りなくなり、慌てて席を作るなどしなければならないほどの盛会でした。

1 総会の報告

令和4年6月26日(日)

午後1時30分から午後4時15分まで

十王コミュニティセンター

議案

- 1 令和3年度事業報告及び収支決算
(承認されました)
- 2 令和4年度事業計画及び収支予算
(承認されました)
- 3 その他

・来年度は役員改選です。

・『史談』第30号を発行しました。

歴史民俗資料館あゆみしるで販売中です。

2 講演会の報告

14時15分から16時15分まで

講師 山形県産業科学館

館長 宮野悦夫氏

演題 「佐野利器の建築ツアー ～佐野博士の足跡をたどる～」



内容の概略

- 1 幼少期
 - ・荒砥山口家に生まれ、上山佐野家に養子
- 2 なぜ「耐震構造」か

- ・地震学者大森房吉との出会い
 - ・コンクリートと鉄骨カーテンウォール方式
日本橋丸善
 - ・欧米への留学
- 3 社会の問題に関わる
 - ・都市計画 「都市計画研究会」
 - ・住宅改革 「生活改善同盟会」
 - ・規格統一 「日本工学会」
 - 4 近代日本「国家プロジェクト」との関わり
 - ・東京駅
 - ・明治神宮造営
 - ・帝都復興事業
 - 5 現存する4つの建築
 - ・市政会館、学士会館、聖徳記念絵画館、神奈川県庁本館
 - 6 教育者として
 - ・東京高等工業学校の大学昇格へ貢献
 - ・日本大学高等工学校校長
 - ・3大学の教授兼任
 - 7 後継者たち
 - ・内田祥三（東京帝国大学総長）
 - ・内藤多仲（東京タワーなど）
 - ・武藤 清（霞ヶ関ビルディング他）
 - ・山下寿郎（NHK放送センター他）

■予定されていた研修旅行の行程

平吹利数会長さんが作ってくださった行程を紹介します。ぜひ個人的な探訪に御利用ください。

- 7:30 白鷹町役場前出発
米沢、国道121号線大峠道路経由
- 9:00 会津湯川道の駅(10分休憩)
- 10:00 浄福寺薬師堂(田子薬師堂)15分拝観
- 10:25 中田観音堂(弘安寺)要予約40分拝観
- 11:15 法用寺(金剛力士像他)要予約30分拝観
- 11:55 会津高田駅周辺で昼食(55分)

- 13:00 富岡観音堂(福生寺観音堂)15分拝観
- 13:25 大光寺板碑（東北最古）10分拝観
- 13:50 会津本郷焼資料館（40分見学等）
国道121号線経由
- 17:10 役場前帰着

また、江口儀雄さんからの情報です。明治22年（1889年）秋に荒砥を訪れ、『荒砥十二景』という漢詩を残した徐晏波（じょあんぱ）という中国の書家の墓が美里町本郷の向羽黒山城（むかひはぐろやまじょう）跡にあるということです。徐晏波は、荒砥に数ヶ月滞在した後、会津本郷へ移り、そこでなくなったので本郷に墓が建てられたようです。



徐晏波塚 写真提供は江口儀雄さん

なお、向羽黒山城は永禄4年（1561年）に蘆名盛氏によって築城が開始され、その後に会津を領有した伊達、蒲生、上杉もこの城を利用しました。とりわけ上杉氏は、慶長3年（1598年）から翌年にかけて籠城戦用に、朝鮮半島の熊川倭城を参考に改修しました。その後に上杉氏は豊臣秀吉の死後に地位を高めてきた徳川家康と対抗することになり、ついに慶長5年（1600年）に徳川家康は上杉景勝征伐を決定することになります。そしてこの会津征伐が関ヶ原の戦いの幕開けとなったのです。もしも関ヶ原の戦いが短期間で収束せず、長期の戦いになっていたら、この向羽黒山城が大切な防御の場所になっていたと思われます。近くには戊辰

戦争の大きな戦場となった会津若松城もあります。それと合わせて見るのも楽しいと思われま

■佐野利器の長男、義兄について

石井紀子

町歴史民俗資料館では、4月2日から5月29日まで企画展「耐震構造の父 佐野利器」を開催したが、十分に資料を展示介しきれなかった実子と義兄について紹介する。

*佐野利器 (1880～1956)

白鷹町荒砥出来町の山口三郎兵衛家に生まれる。東京帝国大学工科大学（現東京大学工学部）にて建築を学び、建築物の耐震構造について生涯をかけて研究した。主な設計は、東京停車場（東京駅、復元）、日本橋丸善（焼失）、聖徳記念絵画館など。教育やメートル法の普及など様々な分野で活躍し、佐野の存在を欠いて日本の近代建築史は語れないと評価されている。

長男 啓一 (1919～1943)

啓一は父と同じく東京帝国大学工科大学にて建築を学び、昭和16年12月31日に学士を合格・卒業した。この時の工学部長は、利器の教え子であり、関東大震災後の都市復興をともに実行した内田祥三、指導教官は耐震構造の研究を進め、日本初の超高層ビル霞が関ビルの構造設計を担当した。また、武藤は利器の長女芳を妻に迎えていた。

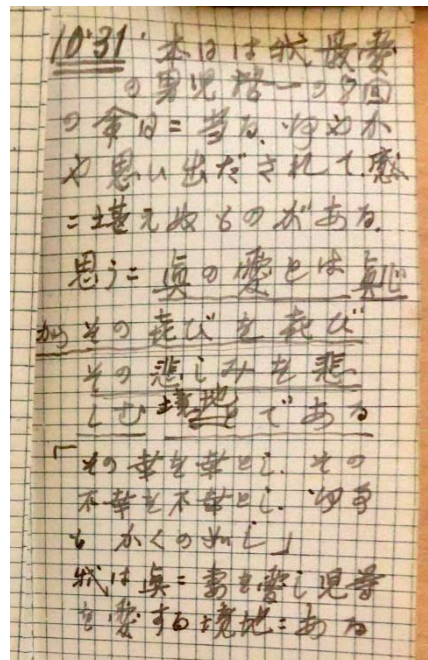
研究テーマは「大スパン構造物に関する研究」とし、武藤の審査要旨によると「近代の大スパン構造物の構造方式を明らかにせるものにして規模の大なる工業建築物の設計し指針を與へたるものなり」と評価された（大スパン構造物とは、建造物の柱芯と柱芯からの距離が標準より

遠く、アーチ構造など構造に工夫が求められる建物のこと）。翌年1月27日に佐野賞を受賞し、賞状と盾が残っている。

また教練検定合格証明書があり、陸軍の訓練を受けることが卒業要件とされ、昭和16年より徴兵のため卒業日を三カ月繰り上げていることから、12月8日に開戦した太平洋戦争の影響がみえる。

啓一は海軍省に勤務し、グリニッジ島での工作隊長を志願して赴任の途中に行方不明となり、18年10月31日に戦死した。19年8月1日に海軍省より弔慰金が送付され、階級は海軍中尉、28年7月8日に靖国神社に合祀された。

利器は三女の婿に全て建築家を迎えており、建築への強い執念があった。長男の啓一にはどれほど期待しただろうか。25年の手帳に「我最愛の男児啓一の8回の命日ニ当る。何やかにや思い出されて、感ニ堪えぬものがある」と書いている。また、言葉には出さなかったが、この頃から影が見えるようになったという。



25年手帳

義兄 秦鷲雄 (1881～1957)

秦鷲雄（上山市出身）は利器の妻ませ（早

世)、美和(姉ませの死後に嫁ぐ)の兄であり、建築に携わった。

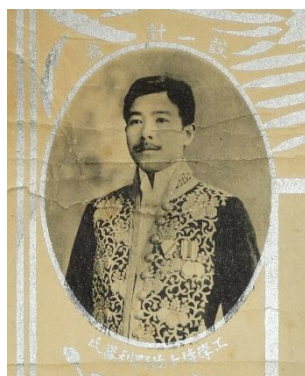
文部省技師だった秦鷲雄と伊藤高蔵は、利器の勧めもあり、大正13年(1924)に秦・伊藤建築設計事務所を開設した。従来、建造物は大工の棟梁が設計から建設までを請け負っていたが、明治時代に西欧建築が流入してくると、設計士と工事を担当する請負業者に分業された。当時、設計事務所はまだ少なく、秦・伊藤建築設計事務所は東北初の設計監理業務専業であった。

また、県内では唯一鉄筋コンクリートの設計を行える事務所でもあり、県内初の鉄筋コンクリート造りの山形市立第一小学校舎(竣工1972年、2001年に国登録有形文化財指定)を設計した。校舎設立には利器の助言があったという。利器は大正12年(1923)の関東大震災によって焼失した木造の小学校117校を、耐震・耐火性に優れた鉄筋コンクリート造りの校舎に再建するための事業にも取り組んでいた。

また、現在の荒砥コミセンにあった荒砥小学校に利器が設計した奉安殿を建設した時には、鷲雄を工事監督者として派遣した。なお、奉安殿は終戦後に取り壊されたが、非常に頑丈で苦勞したという話が残っている。



奉安殿写真



佐野利器



秦鷲雄

雑多な書き方になったが、利器の身近にあり、展示では取り上げきれなかった啓一、秦鷲雄を紹介した。秦については、秦・伊藤設計様に資料を頂戴し、奉安殿の写真は江口儀雄さんから資料館に寄贈いただきました。ここに感謝を申し上げます。

■故奥村幸雄先生の著作物販売は継続します

故奥村幸雄先生の御長男、奥村亘さんからいただいた先生の著作物を白鷹町歴史民俗資料館(あゆみしる)で販売しています。前年度中にだいぶ売れましたがまだ在庫があるものもたくさんあります。この機会にお買い求めください。

また、先に記しましたが、『史談』第30号も販売しています。1冊1,000円になりますが、どうぞ宣伝してください。

在庫品

『郷土の俳人 和田東潮』(ガリ版)、『瀬戸山物語 - 十王焼の歴史 - 』、『米沢藩内切支丹の実相』、『祠風土記』、『浅立諏訪神社獅子舞』、『天白信仰調査 - 覚書 - 』、『天白信仰調査 - 覚書Ⅱ - 』、『水鏡』、『水鏡Ⅱ』、『山野草の民俗』、『梵字探訪』、『遅日庵杜哉考える-芭蕉復帰を希った郷土の俳人-』

守谷